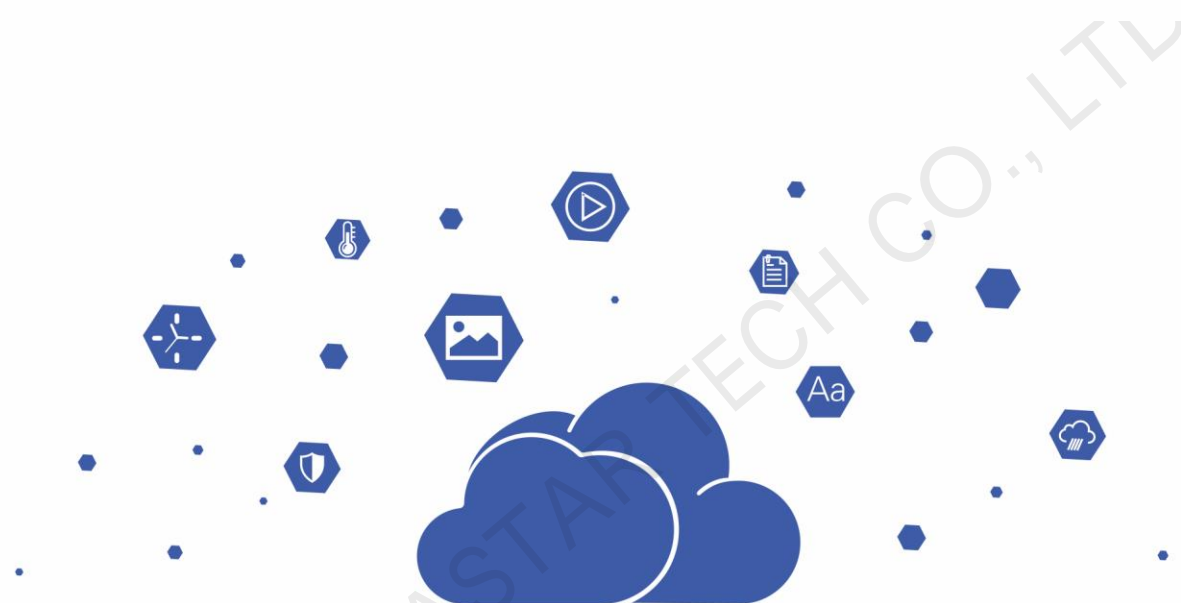


ViPlex Handy

メディアプレイヤー再生・コントロールソフトウェア



ユーザーマニュアル

目次

目次	i
1 ソフトウェアのご案内	1
2 インストールの手順	2
3 デバイスコントロール方法	3
4 LAN コントロール	3
4.1 ローカルデバイス	3
4.2 ローカルスケジュール	17
4.3 自分	22
5 インターネットコントロール	23
5.1 プレーヤー	23
5.2 スケジュール	25
5.3 コンテンツ	26
5.4 自分	27
6 FAQ	28
6.1 ViPlex Handy のバージョンはどうしたら見られますか？	28
6.2 デバイスのファームウェアのバージョンはどうしたら見られますか？	28
6.3 デバイスのファームウェアのバージョンをアップグレードするにはどうしたらいいですか？	28
6.4 デバイスのバインドを実現するには？	30
6.5 マルチスクリーンを設定するには？	32
6.6 フォントをもっと利用するには？	35

1 ソフトウェアのご案内

ViPlex Handy は、マルチプレイヤーTaurus シリーズや JT100 交通向けメディアプレイヤーなど様々なデバイスを管理する Android 版並びに iOS 版対応の携帯端末用ディスプレイ管理ソフトウェアです。

ViPlex Handy の特徴は以下のとおりです。

- 親しみやすいインターフェースで、ユーザーフレンドリーな UI 設計。
- LAN コントロール、インターネットコントロールといった 2 種類のデバイスコントロール方法に対応。
- 操作が簡単で、デバイスにワイヤレスが可能、アクセスも容易。
- 複数のディスプレイで同一画面の再生が可能な同期再生に対応。
- スマート輝度調整によって、自動輝度調整とタイマー輝度調整が可能。
- WiFi AP と WiFi Sta モードの設定に対応したデュアル WiFi 機能を完備。
- 4G モジュールを持つデバイスのモバイルデータネットワークの設定に対応した 4G 接続が可能。
- 同期または同期していないのデュアルモードは、ビデオ出力モードに対応。
- 画面サイズに応じた再生をするアダプティブ再生が可能。
- インターネットで作成してクラウドデバイスに配信することのできる今までと違う遠隔配信モード。

2 インストールの手順

インストールパッケージのダウンロード

QR コードをスキャンし、Android と iOS 版のインストールファイルをダウンロードしてください。



ソフトウェアのインストール

インストールファイルを実行し、画面のメッセージに沿ってインストールを行ってください。

3 デバイスコントロール方法

ViPlex Handy は LAN コントロール、インターネットコントロールといった 2 種類のデバイスコントロール方法に対応します。

- LAN コントロール：WiFi AP か LAN によって接続するデバイスのコントロールに利用できます。詳細は [4 LAN コントロール](#)をご覧ください。
- インターネットコントロール：インターネットに接続しているデバイスコントロールに利用できます。詳細は [5 インターネットコントロール](#)をご覧ください。

初めて ViPlex Handy を開くときは、画面にユーザーにデバイスコントロール方法を選んでもらうメッセージが表示されます。デバイスのネットワーク環境に応じてコントロール方法を選びます。デバイスコントロール方法は「自分 > デバイスコントロール方法」で切り替えることができます。

4 LAN コントロール

WiFi AP か LAN によってデバイスに接続するときは、デバイスコントロール方法を「LAN コントロール」に設定して、デバイスコントロールやスケジュール作成・配信などを行えます。

4.1 ローカルデバイス

4.1.1 デバイス接続

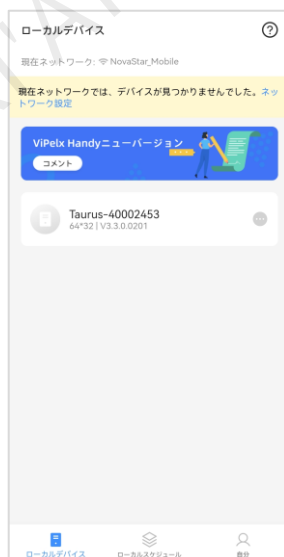
操作場面

本節では、ViPlex Handy で Taurus の WiFi AP に接続することでデバイス接続を実現する方法について紹介します。

操作手順

手順 1 ViPlex Handy を開きます。

図4-1 デバイスリスト



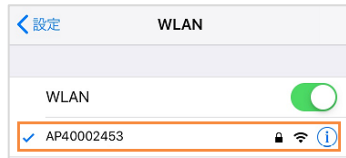
手順 2 「ネットワーク設定」をタップして、携帯の WLAN 接続画面に入ります。

画面の右上にある②をタップして、ローカルデバイス接続に関する操作をもっと知ることができます。

手順 3 Taurus 製品シリーズの WiFi AP に接続します。

初期 SSID は「AP+SN の後ろの数字 8 桁」、初期パスワードは「12345678」です。

図4-2 WLAN 接続



手順 4 ViPlex Handy に戻ってデバイスリストを最新の情報に更新し、Taurus 状態に従って適切な操作を行ってください。

ViPlex Handy において Taurus が自動的に検出され、デバイスリストが最新の情報に更新されます。



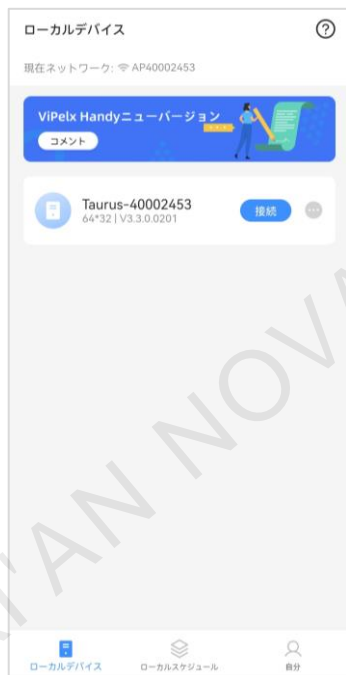
-  : Taurus がオフライン中、接続不可。
-  : Taurus がオンライン中、接続可。手順 5 に沿って実行してください。

図4-3 スクリーンリスト





手順 5 スクリーン名の後ろにある「接続」をタップします。

手順 6 「admin」ユーザーのパスワード（初期パスワード 123456）を入力し、「OK」をタップします。

接続完了後、 が表示され、ViPlex Handy ではアカウント情報を自動保存します。

関連操作

- 接続完了後、パスワードが弱いとチェックされた場合は、画面にパスワードを変更するメッセージが表示されますが、以下の操作を行うことができます。
 - － 「今回は無視する」をタップし、パスワードを変更しません。

- 「パスワード変更」をタップし、順番にデバイスパスワードとホットスポットパスワードを変更します。
- **Taurus** がオンライン状態にある時は、 をタップすると以下の操作を行うことができます。
 - 「バインド」：ローカルデバイスと **VNNOX** クラウドプラットフォームのクイックバインドを実現します。(デバイス接続が完了してから、当該機能が有効になる)
 - 「接続」：タップして **Taurus** に直接接続します。
 - 「パスワードをクリア」：自動保存されているデバイスの接続パスワードをクリアします。(デバイス接続が完了してから、当該機能が有効になる)
 - 「削除」：「ローカルデバイス」リストからこのデバイスを削除します。
- ユーザーは **Taurus** に接続後、 をタップすると以下の操作を行うことができます。
 - 「コントロール」：「デバイス管理」画面に入り、詳細は [4.1.3 VNNOX Care にバインド](#) をご覧ください。
 - 「バインド」：ローカルデバイスと **VNNOX** クラウドプラットフォームのクイックバインドを実現します。
 - 「切断」：接続済みからログアウトします。
 - 「名前を変更」：デバイス名を設定します。
 - 「削除」：「ローカルデバイス」リストからこのデバイスを削除します。

注意：

- 「ローカルデバイス」リストにあるデバイスは、オフライン・オンライン（デバイスの接続が完了したことがある）・接続済みの 3 つの状態では、「バインド」を行えます。
- 「バインド」時にまず携帯がワイドエリアネットワークにアクセスできないか確保してから、ウィザードに沿って **VNNOX** クラウドプラットフォームに登録・ログインする必要があります。

4.1.2 スクリーン構成

操作場面

スクリーン接続を設定し、デバイスに受信カードのプロファイル(Android にのみ対応)を送信し、スクリーンを **VNNOX Care** にバインドします。

前提条件

- 正しいローカルデバイスに接続していること。
- 「スクリーン構成」をオンにしていること。

図 4-4 に示すように、「自分」ページで「スクリーン構成」をオンにしていること。

図4-4 スクリーン構成をオンにする



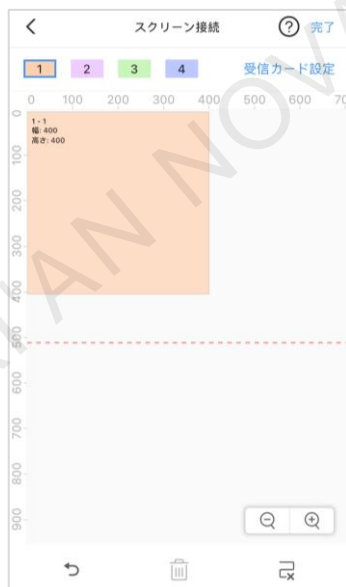
スクリーン接続

受信カードに対して論理的な接続を行うことで、ディスプレイに画面を正しく表示できます。

- 手順 1 「ローカルデバイス」でデバイス名をタップし、デバイス管理ページに入ります。
- 手順 2 「スクリーン構成」を選択します。
- 手順 3 スクリーンでページの構成を行い、「スクリーン接続」をタップします。

現在デバイスに対してスクリーン接続を行うのは初めてである場合は、図 4-5 に示すように、画面には 400 px×400 px の受信カードが一枚表示されますが、すでにスクリーン構成を行った場合は、画面には構成された受信カードの情報及びルーティング方法が表示されます。

図4-5 スクリーン接続画面



ViPlex Handy はバックアップポートを含めた、現在デバイスにあるすべてのポートを自動的に読み取って表示します。図 4-5 に示す 1 2 3 4 とは、現在デバイスの 4 つのポートに相当するものです。

- 手順 4 画面の右上で「受信カード設定」をタップします。

手順 5 「受信カード設定」画面において状況に応じて受信カードの列数・行数及び受信カード 1 枚当りローディングするサイズを設定します。

図 4-6 に示すように、受信カードは 2 列 2 行の場合は、1 枚当りローディングするサイズが 128 px × 128 px となります。

図4-6 受信カード設定

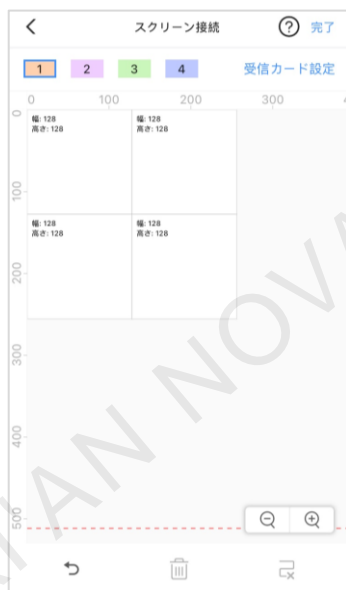
キャンセル		受信カード設定		OK	
受信カード数	列	-	2	+	
	行	-	2	+	
受信カードサイズ	幅	128	px		
	高さ	128	px		

注意：

- ・ 受信カードは行列数を 1~600 の整数、幅・高を 16~1024 の整数としてください。
- ・ 受信カードのトータルローディングサイズは端末デバイスの最大ローディングサイズ以下にしてください。

手順 6 設定完了後、右上にある「OK」をタップしてスクリーン接続画面に戻ります。図 4-7 に示すように、4 つのブロックは、現在デバイスの 4 つのポートを表します。

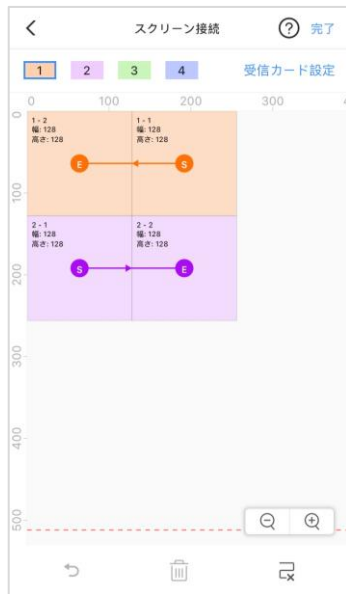
図4-7 スクリーン接続



手順 7 「スクリーン接続」画面からポートを一つ選択し、このポートのローディングする受信カードの真ん中でスワイプすれば、ルーティングを行うことができます。ポート 3、4 はバックアップポートのため、ルーティングを設定できません。

図 4-8 に示すように、ルーティング完了後、ポート毎にローディングする受信カードはそのポートとカラーが同じで、受信カードごとの左上にあるポート番号は、ポート 1 のローディングする 2 枚目の受信カードから「1-2」で表すという風に表示されます。

図4-8 受信カードのルーティング設定



「スクリーン接続」画面では、必要に応じて以下操作を行うこともできます。

- 受信カードを選択します

受信カードを選択した状態で、ボックスの任意側でスワイプすれば、複数選択を行うことができます

- 受信カードの位置とサイズの設定を行います

受信カードを 1 枚か複数選択してタップすれば、位置座標やローディングするサイズの設定を行え、また、選択された受信カードをドラッグすることで、移動することができます。

- 受信カードのローディングする幅・高は 16～1024 の整数としてください。
- 受信カードの位置はキャンバスの範囲を超えてはいけません。

- キャンバスのスケーリング

🔍 か 🔍 をタップするまたは指二本を使ってキャンバスの縮小・拡大を行うことができます。

- キャンセル操作

画面の底にある ↶ をタップすると、もとに戻すことができます。

- 受信カードの削除

受信カードを 1 枚か複数枚選択して画面の底にある 🗑️ をタップすることで、受信カードを削除できます。端末デバイスのファームウェアのバージョンは V3.5.0 以前の場合は、受信カードを削除できず、画面にも 🗑️ アイコンが表示されません。

- ルーティングの削除

画面の底にある 🔄 をタップすることで、現在受信カードのルーティングを削除できます。

注意：

- バックアップポートはルーティングの設定ができません。
- 端末デバイスのシステムバージョンは V3.5.0 以前の場合は、「スクリーン接続」画面では受信カードの選択・削除・ドラッグ、受信カードの位置座標やローディングするサイズの設定を行うことができません。

手順 8 スクリーン接続が完了後、画面の右上にある「完了」をタップします。

「VNNOX Care にバインド」画面に自動スキップし、遠隔操作によるスクリーンの集中モニタリングを実現するために、ガイドに沿ってスクリーンバインドを行ってください。詳細は [4.1.3 VNNOX Care にバインド](#) をご覧ください。

受信カードの構成 (Android にのみ対応)

拡張子が.rcfgx の受信カードのプロファイルをデバイスに送信します。送信前に、プロファイルを携帯ローカルに保存します。

- 手順 1 「ローカルデバイス」でデバイス名をタップし、デバイス管理ページに入ります。
- 手順 2 「スクリーン構成」を選択します。
- 手順 3 「スクリーン構成」ページで「受信カード構成」をタップします。
- 手順 4 「受信カード構成」ページの右上にある「最新の情報に更新」をタップすると、[図 4-9](#) に示すように画面に携帯ローカルに保存した受信カードのプロファイルが表示されます。

図4-9 受信カードのプロファイル



- 手順 5 受信カードのプロファイルの右上にある「送信」をタップして、このプロファイルを現在デバイスに送信します。

4.1.3 VNNOX Care にバインド

現在スクリーンと VNNOX Care をバインドすることで、遠隔によるディスプレイ状態のモニタリングを実現します。

- 手順 1 「ローカルデバイス」でデバイス名をタップし、デバイス管理ページに入ります。
- 手順 2 [図 4-10](#) に示すように、「クラウドサービスへのバインド > VNNOX Care にバインド」を選択し、「VNNOX Care にバインド」画面に入ります。

ソフトウェアはディスプレイのプロファイルを自動リロードバックします。

図4-10 VNNOX Care にバインド



- 手順 3 プロファイルはリロードバック完了後に、サーバーアドレスを選択し、VNNOX Care のログインユーザー名とパスワードを入力します。

図4-11 VNNOX Care にバインド

キャンセル 「VNNOX Care」 にバインド OK	
バックアップファイルはエラー発生時に素早くスクリーンを復元することができます	
サーバーアドレス	テスト >
ユーザー名	123456
パスワード
ファイル名	BZSA48293N0B70002436.oscfg
ファイル内容	1. スクリーン接続ファイル 2. 受信カードバージョン番号/ViPlex Handyバージョン番号

手順 4 画面の右上にある「OK」をタップします。

- 携帯はワイドエリアネットワークに接続している場合は、バインド完了できるので、任務が完了します。
- 携帯はワイドエリアネットワークに接続していない場合は、システムプロファイルが携帯に保存されます。図 4-12 に示すように、手順 5～手順 6 に沿って実行してください。

図4-12 ネットワーク未接続

キャンセル 「VNNOX Care」 にバインド OK	
バックアップファイルはエラー発生時に素早くスクリーンを復元することができます	
サーバーアドレス	テスト >
ユーザー名	123456
パスワード
ファイル名	BZSA48293N0B70002436.oscfg
ファイル内容	システムプロファイルは携帯に保存されました。ワイドエリアネットワークに接続後はVNNOX Careに自動バインドされます

手順 5 図 4-13 に示すように、携帯はワイドエリアネットワークに接続後、ユーザーが画面に入ってバインドするようにソフトウェアが誘導します。

図4-13 今すぐバインド

ローカルデバイス	
現在ネットワーク: WLAN	
ViPlex Handyニューバージョン コメント	
Taurus-70002436 64*321 V3.7.0.0501	接続
Taurus-80000013	接続
2枚のスクリーンはバインド待ちです。今すぐバインドしてもよろしいですか?	
キャンセル	今すぐバインド
Taurus-20007004 400*400	接続

手順 6 「今すぐバインド」をタップし、バインド進捗を表示します。

- デバイスがすべてバインド完了した場合は、任務が完了します。
- デバイスが一部バインド完了した場合は、図 4-14 に示すように、手順 7～手順 9 に沿って実行してください。

図4-14 バインド完了



手順 7 「見る」をタップし、「システムプロファイル」画面に入ります。

図4-15 システムプロファイル



説明：

「自分 > システムプロファイル」を選択して、まだ完了していないデバイスのバインド操作を行うことができます。

手順 8 完了していないデバイスの後ろにある「バインド」をタップし、「VNNOX Care にバインド」画面に入ります。

手順 9 「OK」をタップします。

正しく入力した VNNOX Care のログインユーザー名とパスワードを確認してください。

4.1.4 デバイス管理

操作場面

スクリーンに対してリアルタイムなコントロールやタイマーコントロール、時間同期の構成、マルチスクリーンディスプレイなどを行うことができます。

前提条件

正しいローカルデバイスに接続していること。

操作手順

手順 1 「ローカルデバイス」リストにおいて、デバイス名をタップし、[図 4-16](#) に示すように、「デバイス管理」の機能を設定する画面に入ります。

機能モジュールをドラッグして並び替えを変更出来ます。

図4-16 デバイス管理




手順 2 機能アイコンをタップして、機能を設定する画面に入ります。

機能モジュールは[表 4-1](#) に示すようです。

表4-1 機能について

メニュー	サブメニュー	説明
ファーストコントロール	タイムゾーン	設置 UTC 時区。UTC タイムゾーンを設定します。
	時刻	タイムゾーンの時間を表示します。
	ボリューム調整	スライダをドラッグするかプラス・マイナスボタンを押し、音量を調整します。
	色温度	クールホワイトやピュアホワイト、ナチュラルホワイトなどディスプレイの再生画面の色温度を設定します。
スクリーン設定	スクリーン状態のコントロール	スクリーン状態とそのコントロールルールを手動設定します。
	輝度コントロール	輝度を手動調整し、スマート輝度の調整ルールを設定します。
	タイマー再起動	スクリーンのタイマー再起動ルールを設定します。

メニュー	サブメニュー	説明
クラウドサービスへのバインド	VNNOX Standard/AD へのバインド	<p>デバイスと VNNOX Standard/AD をバインドします。</p> <p>説明:</p> <ul style="list-style-type: none"> ● バインド前に、デバイスをワイドエリアネットワークに接続しないとバインドできません。 ● VNNOX Standard/AD にバインドするには、認証情報が必要です。VNNOX (www.vnnox.com) にログインして、画面の右上で「 > プレイヤー認証」を選択し、「VNNOX Standard/AD 認証情報」を表示してください。
	VNNOX Care へのバインド	<p>デバイスと VNNOX Care をバインドし、遠隔操作によるスクリーンのモニタリングを実現します。詳細は 4.1.3 VNNOX Care にバインド をご覧ください。</p>
詳細設定	パスワード	<p>ローカルデバイスの接続パスワードを変更します。</p> <p>初期ユーザー名は「admin」、初期パスワードは「123456」です。初期パスワードの変更をお勧めします。</p>
	時間同期	<p>デバイスの時間同期ルールの設定に使用します。</p> <p>デバイス同士の画面の同期再生を可能にするには、時間同期が不可欠です。</p>
	詳細機能	<ul style="list-style-type: none"> ● 「同期再生」：同期再生機能をオンまたはオフにします。オンにした場合、異なるデバイスが時間同期を行います。再生するスケジュールが同じであれば、複数のスクリーンの同期再生が可能です。 ● 「解像度」：デバイスの解像度を設定します。 ● 「再起動」：デバイスを再起動します。 ● 「コンテンツをすべてクリアする」：デバイスに保存したすべてのコンテンツをすべてクリアします。 ● 「工場出荷時の設定に戻す」：デバイスを出荷時の設定に戻します。
ネットワーク設定	ワイヤレスネットワーク設定	<p>デバイスの WiFi AP と WiFi Sta モードの設定。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ホットスポット：WiFi AP によってデバイスを接続するときは、デバイスホットスポットの名前とパスワードを設定します。 ● WiFi：デバイスはデュアル WiFi モードに対応する場合、T3/T6/TB3/TB6/TB8 などは WiFi Sta の設定ができます。外部ルーターによってデバイスと ViPlex Handy を同じ無線 LAN に接続し、デバイス接続を実現します。 <p>注意：</p> <p>シングル WiFi モードにのみ対応するデバイスは、ViPlex Handy によって本来搭載の WiFi AP モードを WiFi Sta モードに切り替えることで、デバイスと無線 LAN の接続を実現します。WiFi</p>

メニュー	サブメニュー	説明
		<p>モードの切替を行うには、次のようにデバイスのファームウェアバージョンが必要です。</p> <ul style="list-style-type: none"> • T30/T50/TB30/TB40/TB50/TB60≥V3.6.2 • その他デバイス (T1-4G/TB1-4G/TB2-4G/TB4/TB4A など) ≥V3.7.0
	ワイヤードネットワーク設定	<p>DHCP のオンまたはオフにします。</p> <p>LAN ケーブルを使用してデバイスに直接接続する場合は、DHCP をオフにして、静的 IP アドレスに関する情報を設定します。</p>
	モバイルデータ設定	<p>モバイルデータネットワークをオンまたはオフにします。</p> <p>デバイスに 4G モジュールがある場合は、モバイルデータでデバイスに接続する際に、モバイルネットワークをオンにしてください。画面に通信キャリアの情報が表示されます。</p>
モニタリング	環境輝度	環境輝度を表示します。この機能を有効にするには、デバイスに光ファイバースローブデバイスを接続する必要があります。
	温度	受信カード温度を表示します。
	再生スクリーンショット	再生したい画面に対してスクリーンショットを行います。
	システムパラメータ	CPU 使用率、空きメモリ、外部ストレージを表示します。
	時間パラメータ	デバイスのタイムゾーンと時刻を表示します。
ビデオコントロール	-	<p>ビデオ入力モード、ビデオソース、フルスクリーンスケリング、アウトプットオフセット位置をコントロールします。(Taurus のモデル T6/TB4/TB6/TB8 のみ対応)</p> <p>パラメータ「モード」値の意味は以下の通りです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 「マニュアル」：同期または同期していないモードを即座に切り替えます。 • 「タイマー」：同期または同期していないモードを定期的に切り替えます。 • 「HDMI 優先」：HDMI 端子を優先して同期モードでビデオを再生します。
再生管理	-	デバイスで再生するスケジュールの開始、一時停止、削除を行います。
スクリーン情報	-	<ul style="list-style-type: none"> • ローカル名と登録アドレスを設定し、スクリーンのシステムバージョン、FPGA バージョン、サブソフトウェアバージョンの情報を表示します。 • スクリーンの再生ログや実行ログ、4G 実行ログを取得します。
マルチスクリーンディスプレイ	-	<p>仕様の同じな複数のスクリーンを素早くスプライスします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • T50/TB40/TB50/TB60

メニュー	サブメニュー	説明
		<p>水平スプライスにのみ対応し、数量別・幅別にスプライスを行うことができます。スクリーン同士は HDMI で順番に接続しますが、開始位置のスクリーンに対して構成を行うと共にスケジュールを配信すればいいです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● その他マルチスクリーンスプライスに対応するデバイス (T6/TB4/TB6/TB8 など) <p>左から右への水平スプライスにのみ対応します。スクリーン同士は HDMI で順番に接続しますが、スプライス対象となるスクリーンの順序を一つずつ構成すると共に開始位置のスクリーンにスケジュールを配信することが必要です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● マルチスクリーンスプライスに関する操作の詳細は、6.5 マルチスクリーンを設定するには？をご覧ください。

手順 3 必要に応じて以下の操作を行います。

- 「スクリーン設定 > 輝度コントロール」：スマート輝度調整の設定を行うとき、「自動輝度調整」にする場合は、「自動輝度調整パラメータ」の設定が必要となります。そうすると、スクリーン輝度は設定された起動時間内に自動輝度調整パラメータ表によって自動調整されます。

図4-17 自動輝度調整ルール

00	01	02	0
01	01	1	
02	02	2	
03	03	3	

図4-18 自動輝度調整表

自動輝度調整表				
ファースト分割				
01	2000	Lux	30.0	%
02	2300	Lux	35.0	%
03	2600	Lux	40.0	%
04	2900	Lux	45.0	%
05	3200	Lux	50.0	%
06	3500	Lux	55.0	%
07	3800	Lux	60.0	%
08	4100	Lux	65.0	%
09	4400	Lux	70.0	%
10	4700	Lux	75.0	%
11	5000	Lux	80.0	%

- 「詳細設定 > 時間同期」。必要に応じて時間同期方法を選択すると共に関連パラメータの構成を行い、「完了」をタップします。
 - － NTP 時間同期：「NTP サーバー」を時間基準とし、カスタムサーバーの追加が可能です。

図4-19 NTP 時間同期

時間同期	
時間同期モード	NTP時間同期 >
NTPサーバー	中国 >

- － 無線周波数の時間同期：グループ ID を設定し、現在デバイスをマスターデバイスにするかスレーブデバイスにします。マスターデバイスを NTP サーバーを経由して時間同期する場合は、自動時間同期を有効にし、NTP サーバーを設定します。

図4-20 無線周波数の時間同期

時間同期	
時間同期モード	無線周波数の時間同期 >
グループID	を入力してください
デバイスタイプ	マスターデバイス >
自動時間補正	<input checked="" type="checkbox"/>
NTPサーバー	中国 >

4.2 ローカルスケジュール

4.2.1 スケジュールの作成

注意事項

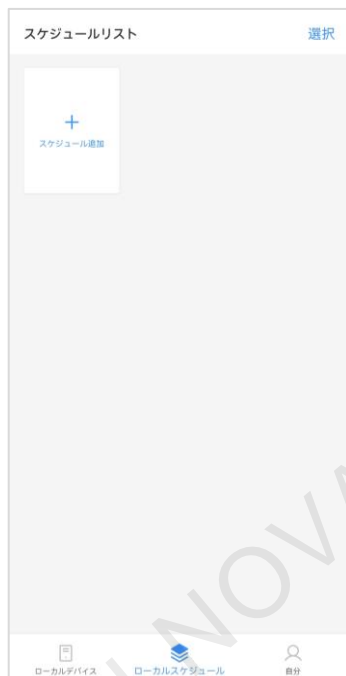
iOS 11.0 及びそれ以降のバージョンでスケジュールの編集や配信、再生を異常なく行うには、ユーザーは事前に以下の手順に従い設定する必要があります。

- 写真設定：「設定」>「写真」>「オリジナルファイルをダウンロード」して保存します。
- カメラ設定：「設定」>「カメラ」>「フォーマット」>「高互換性」。

操作手順

手順 1 図 4-21 に示すように、「ローカルスケジュール」をタップして「スケジュールリスト」画面に入ります。

図4-21 スケジュールリスト



手順 2 + をタップしてスケジュールを追加します。

手順 3 スケジュール名と解像度を設定し、テンプレートを選択して「OK」をタップします。

初期ウィンドウレイアウトかカスタムウィンドウレイアウトを使用できます。

図4-22 スケジュール追加



手順 4（任意選択）ウィンドウ設定をタップし、スケジュールのウィンドウレイアウトを調整します。

図4-23 スケジュール編集



図4-24 布スケジュールのレイアウト



手順 5 スケジュールにあるウィンドウの任意の場所をタップします

図 4-25 に示すように、スケジュールにはウィンドウが二つある場合は、左側領域を編集したいなら、その領域の任意の場所をタップしてください。

図4-25 スケジュール編集



手順 6 コンテンツ追加をタップしします。ViPlex Handy で対応できるコンテンツタイプは表 4-2 に示すようです。

表4-2 コンテンツタイプ

メニュー名	説明
クラウドコンテンツ	5.3 コンテンツ にある画像やビデオの追加に使用します。 前提条件： <ul style="list-style-type: none">• 携帯をワイドエリアネットワークに接続していること。• ViPlex Handy は VNNOX クラウドプラットフォームにログインしていること。
画像	画像の追加やその表示効果、再生時間、効果の設定に使用します。 追加方法 <ul style="list-style-type: none">• 撮影• 携帯のアルバムから選択 対応形式： JPEG、BMP、GIF、PNG、WEBP
ビデオ	ビデオの追加やその再生効果の設定に使用します。 対応形式： MPEG-1/2、MPEG-4、H.264/AVC、MVC、Google VP8、H.263、VC-1、Motion JPEG
GIF	GIF 画像の追加に使用します。
テキスト	単一行テキスト、複数行テキストの追加やそのプロパティ、再生時間、効果の設定、テキストのプレビューに使用します。 クラウドからのフォントのダウンロードに対応します。詳細は 6.6 フォントをもっと利用するには？
アナログ時計	アナログ時計の追加やそのスタイル、文字、再生時間の設定に使用します。
デジタル時計	デジタル時計の追加やそのスタイル、文字、再生時間の設定に使用します。
天気	天気パッケージの追加やそのスタイル、文字、再生時間の設定に使用します。

手順 7 コンテンツプロパティを設定します。

コンテンツタイプごとにプロパティが異なります。例えば、[図 4-26](#) に示すのはアナログ時計のプロパティです。

図4-26 アナログ時計コンテンツのプロパティ



手順 8 (任意選択) **+** をタップし、選択された領域でコンテンツの追加を続けます。

コンテンツを同時に複数追加することが可能です。コンテンツは先頭から順に再生され、ドラッグして再生順を変更することが出来ます。

手順 9 (任意選択) コンテンツアイコンの右上にある「**×**」をタップし、コンテンツを削除します。

手順 10 スケジュールには領域が複数含まれているか教えて下さい。

- はい、**手順 5～手順 9** に沿って実行を繰り返して、スケジュールにある全領域の編集を行います。
- いいえ、**手順 11** に沿って実行します。

手順 11 スケジュールを編集完了後、必要に応じて以下の操作を行います。


- **↓** をタップし、スケジュールを保存します。
 スケジュールに「クラウドコンテンツ」を追加した場合は、スケジュールを保存時にローカルへのダウンロードを同期します（ダウンロードしたものを除く。また、携帯をワイドエリアネットワークに接続することが必要）。
- **📶** をタップし、デバイスを一つか複数選択して「配信」をタップします。
 デバイスとは、接続済みの

4.2.2 スケジュール配信

前提条件

正しいローカルデバイスに接続していること。

関連情報

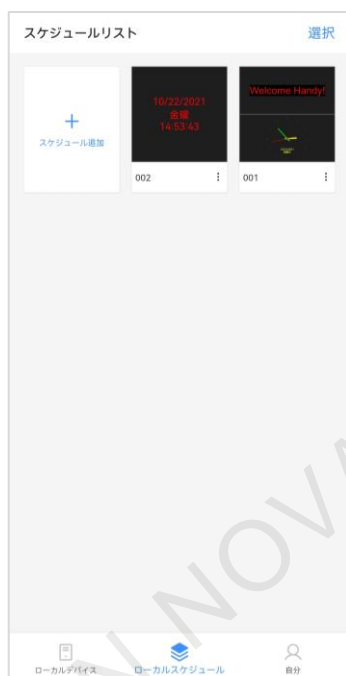
スケジュール編集完了後、 をタップしてスケジュールを配信することが出来ます。詳細は [4.2.1 スケジュールの作成](#) を参照。

その他の場合においては以下操作を行ってスケジュールを配信することが出来ます。

操作手順

手順 1 「スケジュールリスト」から、右上にある「選択」をタップします。


図4-27 スケジュールリスト



手順 2 スケジュール配信にチェックを付けます。

図4-28 スケジュールリスト



手順 3  をタップし、ローカルデバイスを一つか複数選択して「配信」をタップします。

ディスク領域は不足になった時、画面にユーザーのディスク領域不足の場合のメッセージが表示され、すべてのコンテンツのクリアを促します。クリアしないとスケジュール配信ができません。

図4-29 スケジュール配信



4.3 自分

メニュー名	説明
ログイン・登録	<p>VNNOX クラウドプラットフォームにログインします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 携帯番号またはメールアドレスで登録・ログインを素早く行います。 • ユーザーとパスワードを入力して認証・ログインします。 <p>説明：</p> <p>日本のノードはサブユーザーのログインに対応しないため。</p>
デバイスコントロール方法	デバイスコントロール方法の切替に使用します。
ヘルプ	ソフトウェアのバージョン、著作権情報、メールアドレス、操作説明書の表示に使用し、また、「フィードバック」を送信することもできます。
言語	ソフトウェアの言語設定に使用します。現在は中国語、英語、日本語、スペイン語に対応します。
ファームウェア管理	ファームウェアアップグレードパッケージをダウンロードしてローカルデバイスのファームウェアをアップグレードするのに使います。詳細は 6.3 デバイスのファームウェアのバージョンをアップグレードするにはどうしたらいいですか？ をご覧ください。
システムプロファイル	バインドが完了していない VNNOX Care のデバイスリストの表示に使います。デバイスがネットワークに接続して、バインドを行うことができます。詳細は 4.1.3 VNNOX Care にバインドの 4.1.3 手順 7～4.1.3 手順 9 をご覧ください。
スクリーン構成	<p>スクリーン構成のオン・オフに使います。</p> <p>スクリーン構成をオンにすると、スクリーン構成を行うことができます。この機能は主にテクニカルサポートエンジニアに使用し、適切な専門知識や経験が求められます。</p>
デモモード	<p>デモモードをオン・オフにするのに使います。</p> <p>デモモードをオンにするときは、ユーザーはデバイスに接続しなくてもすべての機能を利用できます。</p>
キャッシュコンテンツのクリア	ローカルにダウンロードした一時ファイルのクリアに使います。この操作を行っても、スケジュールの使用が影響されません。

5 インターネットコントロール

デバイスはインターネットに接続しているときは、デバイスコントロール方法をインターネットコントロールに設定後に、画面に表示されるメッセージに沿って VNNOX クラウドプラットフォームにログインすることで、インターネットで遠隔によるデバイスコントロールや、スケジュール作成・配信などを行えます。

携帯番号やメールアドレスで素早く登録・ログインするほか、ユーザー名とパスワードを入力して認証ログインすることも可能です。

説明：

日本のノードはサブユーザーのログインに対応しないため。

図5-1 登録・ログイン



インターネットコントロールの場合、画面には現在ユーザーが有する権限の機能モジュールのみが表示されます。

5.1 プレーヤー

操作場面

ViPlex Handy で VNNOX クラウドプラットフォームのデバイスを表示、コントロールします。

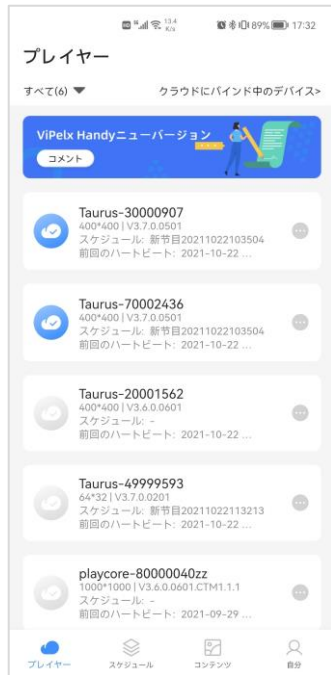
前提条件

- 携帯電話をワイドエリアネットワークに接続していること。
- VNNOX アカウントが「プレーヤー」に関する権限を持つこと。

操作手順





手順 1 図 5-2 に示すように、ViPlex Handy を開いて 「プレーヤー」 画面に入ります。

図5-2 プレーヤー



手順2 クラウドプラットフォームのデバイスを表示します。

▼をタップして、デバイスのオンライン状態別に現在リストのデバイスに対して選別を行うことができます。

-  はデバイスがオンライン中です。  をタップして以下の操作を行うことができます。
 - 「コントロール」: 「黒画面」や「ノーマル表示」などスクリーン状態を設定します。(デバイス名をタップしてスクリーン状態を設定することも可能です。)
 - 「名前の変更」: デバイス名を設定します。
 - 「削除」: デバイスをクラウドプラットフォームのデバイスリストから削除すると、デバイスとクラウドプラットフォームのバインドが解除されます。
-  はデバイスがオフライン中です。  をタップして以下の操作を行うことができます。
 - 「名前の変更」: デバイス名を設定します。
 - 「削除」: デバイスをクラウドデバイスリストから削除すると、デバイスとクラウドプラットフォームのバインドが解除されます。

手順3 画面の右上にある「クラウドにバインド中のデバイス」をタップして、「バインド」を実行したがクラウドプラットフォームにバインドしていないデバイスを表示します。

トラブルシューティングは [6.4 デバイスのバインドを実現するには？](#) をご覧ください。

5.2 スケジュール

操作場面

ViPlex Handy で VNNOX クラウドプラットフォームのスケジュールの表示や新規作成、配信、削除を行います。

前提条件

- 携帯電話をワイドエリアネットワークに接続していること。
- VNNOX アカウントが「スケジュール」に関する権限を持つこと。

操作手順

手順 1 「スケジュール」をタップし、クラウドプラットフォームのスケジュールを表示します。

図5-3 スケジュール






手順 2 スケジュールを新規作成します。




1. **+** をタップします。
2. スケジュール名と解像度を設定し、「OK」をタップします。
3. 「画像」か「ビデオ」をタップし、必要なものを選択して「完了」をタップします。
4. **+** をタップし、画像かビデオを続けて追加します。
5. **保存** をタップしてスケジュールを保存します。

手順 3 スケジュールを編集します。


1. スケジュールをタップし、スケジュール編集画面に入ります。

2. ViPlex Handy 上で作成されたクラウドスケジュールのみが編集可能です。これらのスケジュールの右上には、編集可能を表すマークが付いています。
3.  をタップし、画像やビデオを追加します。
4. コンテンツの右上にある  をタップし、画像やビデオを削除します。
5.  をタップしてスケジュールを保存します。

手順 4 スケジュールを配信します。

1. スケジュール編集画面で、スケジュールの右上にある  をタップするか、「スケジュール」画面で、スケジュールの右下にある「 > 配信」を選択します。
2. 一つか複数のプレイヤーを選択し、「配信」をタップします。
3. 「スケジュール」画面で、右上にある  をタップし、スケジュールの配信状態を表示します。

手順 5 スケジュールを削除します。

4.  をタップし、削除待ちスケジュールにチェックを付けます。
5. 「削除」をタップします。
6. 「OK」をタップします。

5.3 コンテンツ

操作場面

ViPlex Handy でコンテンツライブラリにある画像やビデオを表示、アップロード、削除します。ここでいうコンテンツライブラリとは、VNNOX Standard のコンテンツのことです。

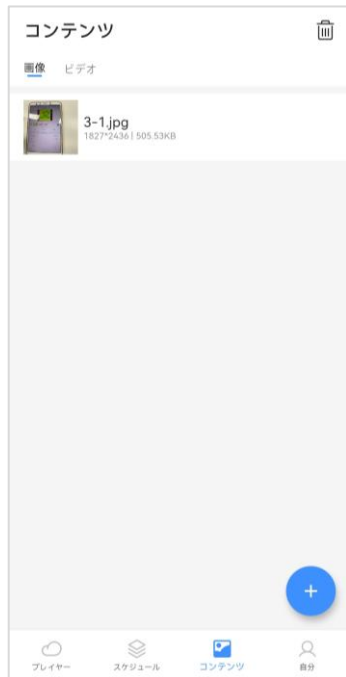
前提条件

- 携帯をワイドエリアネットワークに接続していること。
- VNNOX アカウントが「コンテンツ」に関する権限を持つこと。



操作手順

手順 1 「コンテンツ」をタップし、コンテンツライブラリにある画像やビデオを表示します。

図5-4 コンテンツ



手順 2 必要に応じて以下の操作を行います。

-  をタップし、ローカルの画像やビデオをコンテンツライブラリにアップロードします。
-  をタップし、コンテンツライブラリにある画像やビデオを削除します。

5.4 自分

メニュー名	説明
デバイスコントロール方法	デバイスコントロール方法の切替に使用します。
ヘルプ	ソフトウェアのバージョン、著作権情報、メールアドレス、操作説明書の表示に使用し、また、「フィードバック」を送信することもできます。
言語	ソフトウェアの言語設定に使用します。現在中国語、英語、日本語、スペイン語に対応します。
キャッシュコンテンツのクリア	ローカルにダウンロードした一時ファイルのクリアに使用します。この操作を行っても、スケジュールの使用が影響されません。
ログアウト	VNNOX クラウドプラットフォームからのログアウトに使用します。

6 FAQ

6.1 ViPlex Handy のバージョンはどうしたら見られますか？

- 手順 1 「自分」>「ヘルプ」を選択します。
- 手順 2 ViPlex Handy ソフトウェアのバージョンを確認します。

6.2 デバイスのファームウェアのバージョンはどうしたら見られますか？

- 手順 1 ローカルデバイスに接続します。
- 詳細は [4.1.1 デバイス接続](#) を参照。
- 手順 2 「ローカルデバイス」リストにおいて、デバイス名をタップし、「デバイス管理」画面に入ります。
- 手順 3 「デバイス情報」を選択します。
- 手順 4 デバイスのソフトウェアバージョン情報及びサブソフトウェアバージョン情報を確認します。

6.3 デバイスのファームウェアのバージョンをアップグレードするにはどうしたらいいですか？

アップグレードポリシー

- デバイスのファームウェアのバージョン<V2.3.0 の場合は、まずは移行版に、それから最新バージョンにアップグレードする必要があります。
- デバイスのファームウェアのバージョン≥V2.3.0 の場合は、最新バージョンに直接アップグレードすることができます。

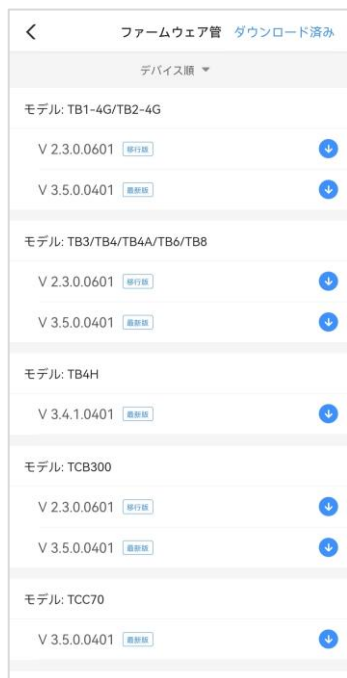
注意：

デバイスのファームウェアのバージョン<V1.2.8 の場合は、ViPlex Handy はデバイスに接続後、デバイスのファームウェアのバージョンが古すぎるとメッセージが表示されたら、ユーザーにアップグレードするよう誘導します。アップグレードしない限り、これ以上 ViPlex Handy を利用できません。



操作手順

- 手順 1 ViPlex Handy を開きます。
- 手順 2 「自分 > ファームウェア管理」を選択し、「ファームウェア管理」画面に入ります。
- 手順 3 ケータイをインターネットにつなげる WiFi かモバイルネットワークに切り替えると、[図 6-1](#) に示すように、ViPlex Handy は各モデルのファームウェアアップグレードパッケージが表示されます。
- 既にアップグレードパッケージをダウンロードした場合は、そのまま [手順 5](#) に沿って操作を行ってください。

図6-1 ファームウェア管理



手順 4 以下いずれか一つの操作を行い、必要とするファームウェアアップグレードパッケージをダウンロードします。

- 必要とするバージョンのアップグレードパッケージ右側にあるダウンロードボタン をタップします。
- 「デバイス順」をタップし、対象デバイスを選択後に「OK」をタップしてこのデバイスのアップグレードパッケージを選択したら、右側にある を押します。


ダウンロード完了後、[図 6-2](#) に示すように、 は「使用」となります。画面の右上にある「ダウンロード済み」をタップしてダウンロード済みのファームウェアアップグレードパッケージを削除できます。

図6-2 ダウンロード完了



手順 5 バージョンのアップグレードパッケージ右側にある「使用」をタップし、対象デバイスにアップグレードパッケージを送信します。

- 必要とするアップグレードパッケージをデバイス順に選択した場合は、「使用」をタップすると対象デバイスに自動接続します。
- アップグレードパッケージに対して選択していない場合は、「使用」をタップすると画面に最近接続したデバイスリストが表示され、対象デバイスを選択して「アップグレード」をタップする必要があります。
- デバイス接続失敗かデバイスが見つからない場合は、ケータイを対象デバイスの WiFi AP に手動接続し、「使用」をタップします。

ファームウェアアップグレードパッケージ送信完了後、デバイスは自動アップグレードして自動的に再起動するので、「ローカルデバイス」にてデバイスに再接続してください。

6.4 デバイスのバインドを実現するには？

問題説明

デバイスは「バインド」を行った後もクラウドにバインドせず、まだ「バインド処理中」の状態にあります。

図 6-3 に示すようです。

図6-3 バインド処理中



原因分析

- デバイスをワイドエリアネットワークに接続していません。
- デバイスと携帯は同じ LAN ではありません。（デバイスのファームウェアのバージョン < V2.3.0 の場合のみこれが要求される）

- デバイスはクラウドにバインドされています。

対処法

- ✦ **場面 1：デバイスのファームウェアのバージョン<V2.3.0 の場合に「バインド処理中」に「再試行」ボタンが表示されます。**

注意：

方法 A：6.3 デバイスのファームウェアのバージョンをアップグレードするにはどうしたらいいですか？に述べるように、デバイスファームウェアを最新バージョンにアップグレードしてから、再試行します。

方法 B：手順 1～手順 2 をご覧ください。

手順 1 デバイスはワイドエリアネットワークに接続しているかどうかチェックします。

- はい。手順 2 に沿って行います。
- いいえ。デバイスをワイドエリアネットワークに接続してから「再試行」をタップし、デバイスをワイドエリアネットワークに接続後、「再試行」をタップして、バインドが完了したかももう一度確認します。
 - － はい。操作が完了します。
 - － いいえ。手順 2 に沿って行います。

手順 2 デバイスは携帯と同じ LAN にあるかどうかチェックします。

- はい。「再試行」をタップします。
- いいえ。デバイスを携帯と同じなワイドエリアネットワークに接続後、「再試行」をタップします。

- ✦ **場面 2：デバイスのファームウェアのバージョン≥V2.3.0 の場合に「バインド処理中」に「表示」ボタンが表示されます。**

手順 1 「表示」をタップします。



手順 2 メッセージに沿って、デバイスをワイドエリアネットワークに接続します。

✦ 場面 3 : 「バインド処理中」リストの状態は「失敗」になっています。

手順 1 デバイスはクラウドにバインドしているかどうかチェックします。

- はい。操作が完了します。
- いいえ。手順 2 に沿って行います。

手順 2 「バインド処理中」リストからこのデバイスを削除します。

手順 3 もう一度バインドを行います。

バインドは 4.1.1 デバイス接続の章節に記載する手順をご覧ください。

6.5 マルチスクリーンを設定するには？

操作場面

仕様の同じな複数のスクリーンを素早くスプライスするのに使います。

前提条件

- デバイスコントロール方法は LAN コントロールとすること。
- ハードウェアデバイスがマルチスクリーンスプライスに対応し、かつすでにそれらを接続していること。
- スプライス対象となるスクリーンの仕様が同じであること。

操作手順

「マルチスクリーンスプライス画面の設定と操作はデバイスのモデルによって以下の 2 場面に分けられます。

✦ 場面 1 : デバイスモデルは T50/TB40/TB50/TB60

注意：

- 仕様の同じなスクリーンの水平スプライスにのみ対応します。
- スクリーン同士は HDMI で順番に接続しますが、開始位置のスクリーンに対して構成を行うと共にスケジュールを配信すればいいです。

手順 1 「ローカルデバイス」リストでデバイス名をタップし、デバイス管理ページに入ります。

手順 2 「マルチスクリーンスプライス」を選択します。

手順 3 「マルチスクリーンスプライス」の右側にあるものをオンにし、図 6-4 に示す画面に入ります。

図6-4 マルチスクリーンスプライス



手順 4 実際の状況に応じて関連パラメータを設定します。

- 「スプライス方向」: 「左から右へ」、「右から左へ」などスクリーンのスプライス方向を設定します。初期設定は「左から右へ」です。
- 「スプライス方法」: スクリーン数量別に・スクリーン幅別にスプライスすることに対応します。初期設定は「数量別」です。
- 「スプライス数」: スプライス方法は「数量別」にする場合、スプライス対象となるスクリーン数の「スプライス数」を設定する必要があります。



- 「スプライス幅」: スプライス方法は「幅別」の場合、スプライスした後のスクリーン総画素幅の「スプライス幅」を設定する必要があります。



手順 5 設定完了後、画面の右上にある「完了」をタップします。

✦ 場面 2 : その他マルチスクリーンに対応するデバイス (T6/TB4/TB6/TB8 など)

注意 :

- 仕様の同じなスクリーンの左から右への水平スプライスにのみ対応します。
- スクリーン同士は HDMI で順番に接続しますが、スプライス対象となるスクリーンの順序を一つずつ構成すると共に開始位置のスクリーンにスケジュールを配信することが必要です。

手順 1 「ローカルデバイス」リストで、デバイス名をタップしてデバイス管理ページに入ります。

手順 2 「マルチスクリーンスプライス」を選択し、図 6-5 に示す画面に入ります。

図6-5 マルチスクリーンスプライス

マルチスクリーンスプライス 完了

1.ディスプレイは左から右へと一文字に水平なスプライスを行いたい場合は、同一サイズのみ対応可能です。画面の対応可能なローディングは4096px以下です。スクリーンサイズによっては、スプライス総数の最大対応数は16もあります。適切に構成してください。

2.スクリーン同士はHDMIで順番に接続されます。スプライスを行われるスクリーンに対してスプライスに番号を振り、開始位置のスクリーンでスケジュールを配信します。

スプライス総数 を入力してください

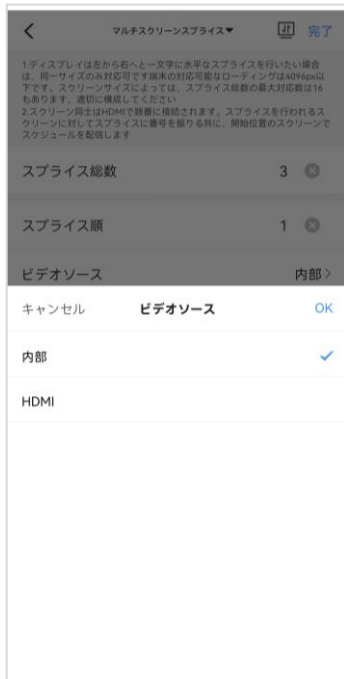
スプライス順 を入力してください

手順 3 実際の状況に応じて関連パラメータを設定します。

- スクリーン総数 : スクリーン対象となるスクリーン数。
- スプライス順 : 現在スクリーンのスプライス順。

現在スクリーンのスプライス順は「1」の場合、図 6-6 に示すように、ビデオソースを選択して「OK」をタップする必要があります。

図6-6 ビデオソースの選択



手順 4 設定完了後、画面の右上にある「完了」をタップします。

手順 5 手順 1~手順 4 を繰り返し実行し、スプリイス対象となるスクリーンに対して一つずつその順序を設定します。

6.6 フォントをもっと利用するには？

操作場面

ローカルスケジュールにテキストコンテンツを追加後、クラウドからフォントをもっと入手して編集を行うことができます。

前提条件

携帯をワイドエリアネットワークに接続します。

操作手順

手順 1 「ローカルスケジュール」をタップし、「スケジュールリスト」画面に入ります。

手順 2 **+** をタップしてスケジュールを追加します。

手順 3 スケジュール名やその解像度を設定後、ウィンドウレイアウトを選択して「OK」をタップします。

手順 4 スケジュールにあるウィンドウの任意の場所をタップします。

手順 5 「コンテンツの追加」をタップし、「テキスト」を選択します。

図6-7 スケジュール編集画面



手順 6 画面の下面から「テキスト > フォント」を選択します。

図6-8 フォントの選択




手順 7 「もっと見る」をタップします。

クラウドのすべてのフォントが表示されます。

図6-9 もっと見る

<div> <div><</div> <div>もっと見る</div> </div>	
Altinn Din	
Baloo 2	
包圍小自時	
DM Serif	
斗魚追光體	
Fjalla One	
小瀬字体 (Kosefont-JP)	
Krona One	
にくまるフォント	
Open Sans	
Pacifico	
庞门正道标题体	
Quantic	

手順 8 フォントの後ろにある  をタップし、VNNOX ログイン画面に入ります。

ここで、携帯をワイドエリアネットワークに接続していないか確認してください。

手順 9 VNNOX にログインします。

VNNOX にログインしている場合は、フォントをローカルにダウンロードする状態になります。後ろには、「ダウンロード済み」が表示されます。

図6-10 フォントのダウンロード

◀	もっと見る
Altinn Din	ダウンロード済み
Baloo 2	ダウンロード済み
包圍小自時	ダウンロード済み
DM Serif	ダウンロード中
斗魚復興体	📶
Fjalla One	📶
小瀬字体 (Kosefont-JP)	📶
Krona One	📶
にくまるフォント	📶
Open Sans	📶
Pacifico	📶
庞门正道标题体	📶
Quantico	📶

- 手順 10 左上にある◀をタップし、フォント編集画面に戻ります。
- ダウンロード済みのフォントはフォントリストに表示されます。

図6-11 フォントの選択



- 手順 11 フォントを選択してすぐ適用できます。

著作権は © 2021 Xi'an NovaStar Tech Co., Ltd. が所有しています。無断複写または転載を禁じます。
当社の書面による許可なしに、この文書の内容の一部またはすべてをコピー並びに複製することを禁止します。また、いかなる形式でも送信することを禁止します。

ブランドステートメント

 **NOVA STAR** はNovaStarの登録商標です。

ステートメント

Xi'an NovaStar Tech Co., Ltd.の製品をご利用いただき誠にありがとうございます。この文書が、お客様の製品の理解と使用の助力となり便利になることを期待しております。文書の作成において正確かつ信頼できるものであるよう努めておりますが、予告無く変更になる場合があります。何卒ご了承ください。ご利用中にご意見またはご質問等がありましたら、記載した連絡先までご連絡ください。当社はご利用中にあったご不明な点について対応し、ご意見については謝意を表すとともに早期に評価の上採用させていただきます。

公式サイト
www.novastar.tech

技術サポート
support@novastar.tech